

町長日誌

(12月1日～31日)



12月2日	民生委員児童委員感謝状並びに委嘱状 交付式 多古交番年末警戒激励式
5日～12日	町議会 12月定例会
6日	成田国際空港 AOC 加盟航空会社懇親 会(成田市)
7日	多古町消防団役員会議
10日	総務厚生常任委員会
18日～19日	両総用水事業推進協議会先進地視察研 修(埼玉県・群馬県)
20日	ハニラ・エア(株)就航セレモニー(成田市)
21日	香取・東総首長懇話会(銚子市)
24日	千葉県国民健康保険審査会(千葉市)
27日	横芝・神崎間圏央道建設促進協議会臨 時総会(成田市) 御用納め

自分たちでつuitたお餅の味は格別!!

12月13日、子どもたちとのふれ合いを大切にしようとして久賀地区社会福祉協議会(地区社協)の方々主催によるお楽しみ会が久賀幼稚園で開かれました。ほほを刺す冷たい風にも負けないくらい元気いっぱい幼稚園と北保育所の園児たちは、「よいしょー よいしょー」と掛け声とともに、小さい体をめいっぴい使って餅つきに挑戦した後、地区社協の方々に踊りや劇を披露しました。お昼ご飯には雑煮やきな粉、あんこ、からみ餅が用意され、みんなでつuitたお餅を美味しく食べました。会の途中では、サンタクロースが登場して子どもたちにプレゼントを配るサプライズもあって、一足早いクリスマスプレゼントに園児たちは大喜びでした。



きらり センスが光ります ～クリスマスリース作り～

今回で5回目となる仲町通り商店会主催の「クリスマスリース作り」がギャラリーなかまちで開かれ、12月1日の朝から親子連れや商店街の方々、町外の方など延べ40人ほどが夕方までリース作りに挑戦しました。

松かさ(まつぼっくり)を針金でつなぎ輪にして、そこに木の葉などを飾ります。松かさのかわりに、自分で山から採ってきた藤のツルを使う方や、毎年参加しているという小学生は、今年の干支にちなんだ「午(馬)」の形にするなど、工夫を凝らした思い思いのリースを楽しみながら作りました。完成した作品は、1週間ほどギャラリーに展示され、一般投票により優秀作品も決定しました。来年も開催予定ですので多くの皆様の参加をお待ちしています。



会いにきたよ



東保育所の園児たちが12月5日、今年で3年目となるおじいちゃん、おばあちゃんとのふれあい会で、多古特別養護老人ホームを訪れました。大勢の方々に迎えられた園児はお遊戯の衣装に着替えて、利用者の一人一人と一緒に音楽に合わせて手遊びなどを行いました。元気いっぱいの踊りやかわいらしい姿にたくさんの拍手と笑顔があふれる日となりました。

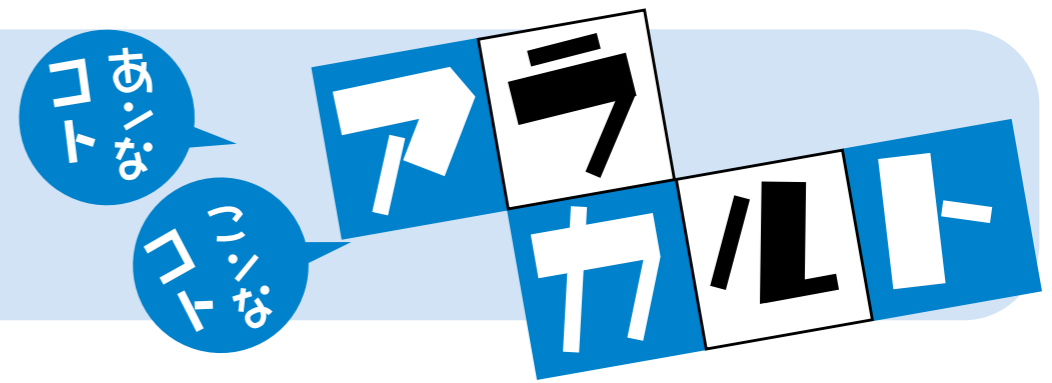
力を合わせて引っぱれー

12月7日、多古町民綱引大会が多古中学校体育館で開催されました。

日ごろから練習を積んでいるチームから大会に出場するために作った即席のチームなど全29チームが参加し、1本の綱をめぐる熱い戦いが繰り広げられました。一生懸命力いっぱい綱を引く姿に、応援にも力が入り体育館は声援で賑わいました。力の差はありましたがどのチームもみんな楽しむことができた大会となりました。



町の出来事や頑張っている皆さんを紹介するアラカルトコーナー。
このコーナーでは、皆さんからの情報をお待ちしています。
〒289-2292
多古町役場総務課広報係 ☎76-2611



JAF 安全講習会

多古高校の原動機付自転車(原付)で通学している全学年生徒102人を対象に、日本自動車連盟千葉支部(JAF)による安全運転講習会が包括協定に基づいた取り組みの一環として、昨年に引き続き開催されました。

内容は、「急制動」「スラローム」「狭路」走行と「車の死角」を確認する実技と交通法規などをクイズ形式で学ぶ座学とを合わせて約2時間にわたって行われました。初めて参加した生徒は「アクセルワークが為になった」、「原付の運転は、単純そうに見えるけど意外に難しい」と感想を話し、充実した講習会となりました。

実技指導にあたったJAFロードサービス隊の方は「原付は車検が不要なので、つい整備がおろそかになりやすい。また、自分が車からどう見えているかの死角について理解すること、適切なスピードで走ること。これらをよく学ぶことが事故を防ぎ、より安全に乗るためのポイントです」と話します。



ロードサービス隊よりアドバイスを受ける生徒



交通法規を再確認



狭路走行の様子

地域農業の課題を解消する取組として

耕作放棄地の再生へ向けて「多古町酪農組合」と水稲農家の「やる気集団」、公的機関である「町農業委員会」の三者が連携した取り組みがスタートしました。

この取り組みは、大半が輸入に頼っている飼料の値段が高騰しているにもかかわらず、生産コストに見合わない乳価が続く厳しい酪農家の現状下において、農業従事者の高齢化と担い手不足等により増加している耕作放棄地を活用して、飼料の自給率を向上しようとするものです。約1割の耕作放棄地に生い茂った2m以上ある「葎」を、総勢40名ほどで昨年の12月2日から3日間かけて刈り取った後は、水はけを改善するための工事を行い、この春からはホールクroppサイレーシ[※]用の稲が作付されます。現在、町には約200割の耕作放棄地がありますが、今後もこのような取り組みを進め、農地の健全利用を推進していく予定です。

(※稲の実と茎葉を同時に収穫し、ロール状にして発酵させた飼料)



(上) まずは刈払機で「葎」を刈る作業から



(左) 側溝に詰まった泥を取り除き、使えるようにします